

## 令和5年度議会報告会（総務文教常任委員会）報告書

開催年月日：令和5年5月30日（火）

会場名：救急薬品市民交流プラザ 1階ふれあいホール

参加者数：54名

出席議員：高畑、堀、奈田、根木、寺岡、山本、杉浦

総務文教常任委員会では、「子どもたちの教育環境について」をテーマとし、以下の8つの小テーマに関し、12のグループに分かれてワークショップを実施しました。それぞれの小テーマごとに、いただいたご意見の一部を抜粋して、まとめました。

### 1 アフターコロナの教育現場について

#### [現状・課題など]

- ・ 学校行事の制限が多く残っており、時間が短縮され、内容が少なくなった。
- ・ 学校の先生や保護者とのつながりが希薄化している。
- ・ マスクをはずせない子どもや、マスクをしたほうが感情を出さなくて楽だと感じている子どもがいる。
- ・ マスクの着用によるコミュニケーション不足

#### [期待・希望など]

- ・ 子どもの意見を反映させた学校行事にしてほしい。
- ・ 学校行事や校外活動が活発化してほしい。
- ・ マスクのない、笑顔があふれる学校生活を送ってほしい。
- ・ 状況に応じて、対面とリモートの良い点をハイブリッドすることも必要

## 2 学校に行きづらさを感じている子どもへの対策について

### [ 現状・課題など ]

- ・ 自分の子どもが被害者になったら、加害者になったらと考えると不安。相談する相手が、直接的にも、間接的にもいない。
- ・ 学校以外の日中の学びの場や居場所が少なく、近くにない。また、そういった情報を手軽に入手できない。
- ・ 不登校に関する周囲の理解が不足している。「不登校 = 悪いこと」ではない。
- ・ 学校との対話や連携、協力関係がうまくいっていない。

### [ 期待・希望など ]

- ・ 学校以外の学びの場や居場所を充実するための支援が必要
- ・ 不登校支援に関するワンストップの情報提供や情報共有の場がほしい。
- ・ 「不登校は、悪いことでも、特別なことでもない」という周知と世間の理解が必要
- ・ 福祉専門職ともっと気軽に連携できる体制づくりが必要

## 3 子どもと地域とのコミュニケーションについて

### [ 現状・課題など ]

- ・ 子どもと地域とのつながりが希薄になり、子どもから見て、地域の人か不審者かの判別もつかない。また、大人側も、子どもへの関心の高さにバラつきが見られる。
- ・ 地域の子どもの数が少ない。また、子どもが外に出て、1人でも安心して行ける場所や集まる場所がない。
- ・ 地域のことを大切に思う郷土愛の地域差を感じる。

- ・ 子どもたちの見守り隊の高齢化が進んでいる。また、見守りをできる人が少なくなっている。

[ 期待・希望など ]

- ・ まずは、大人が地域の子どもに関心を持ち、学校や保育園、地域などで子どもと関わり、接する機会を増やしていく。
- ・ 地域の人みんなで、子どもたちを見守り、育てる意識の醸成
- ・ 学生や若者、保護者世代も積極的に地域に関わる。
- ・ 子どものサードプレイスが地域にある。

4 学校と地域とのコミュニケーション（コミュニティ・スクール）について

[ 現状・課題など ]

- ・ 導入のねらいや、今までの組織との違いなど、詳しく知りたい。
- ・ メンバーの固定化が懸念される。
- ・ 学校運営への認識不足や、学校、保護者、地域の3者の連携に関する不安
- ・ 導入までのスケジュールや時間の確保への心配

[ 期待・希望など ]

- ・ 地域全体で子どもたちを育てる雰囲気が醸成される。
- ・ 子どもたちが地域を元気にするきっかけになる。
- ・ 地域と学校の結びつきや連帯感を高める。
- ・ 参加者全員が意見を言える場であってほしい。

5 保護者の負担（中学校の休日部活動の地域移行）について

[ 現状・課題など ]

- ・ 教員の働き方改革と、部活動を頑張りたい子どもたちの思いは一致しているのか。

- ・ 場所や指導者、受け皿の不足
- ・ 子どもと学校、指導者をつなげるコーディネーターがいない。
- ・ 費用や送迎への負担感

[ 期待・希望など ]

- ・ 一貫した指導体制によるアスリートの育成
- ・ 多様化するニーズに対応し、実現することができる。
- ・ 子どもから大人までの幅広いつながりが生まれ、地域活性化や地域愛の醸成が期待される。
- ・ 生涯スポーツとして、継続して楽しむことができる。

6 スマホやネットへの不安について

[ 現状・課題など ]

- ・ 携帯料金の上昇や課金の問題
- ・ 対面での会話の減少や、水面下でのいじめといったコミュニケーションにおける悪影響
- ・ ネット利用による身体的影響（視力低下・睡眠不足など）及び精神的影響（ネット依存・有害サイトなど）
- ・ 個人情報（パスワードやクレジットカード情報）流出への懸念

[ 期待・希望など ]

- ・ 学校や家庭での対話
- ・ 子どものスマホ利用に関する、学校と家庭における責任の分離（学校で可能な指導の限界を理解）
- ・ 個別学習の充実や、良い学びと経験につながるような適切な利用
- ・ 子どもの情報リテラシーの向上

## 7 多様性への対応について

### [ 現状・課題など ]

- ・ 特別支援学級の子どもたちと普通学級の子どもたちとの間に見えない壁を感じる。
- ・ 支援を必要とする子どもが増えており、将来的に自立して働くことができるのか。
- ・ 外国にルーツを持つ児童生徒やその保護者における言語や文化、価値観の相違
- ・ 経済的な支援についての情報提供が不足している。

### [ 期待・希望など ]

- ・ 特別支援学級への入級を促すことなく、みんなが同じ場所で学ぶことができるようなサポート体制や、みんなが手助けしていける環境を整えたい。
- ・ 社会の考えを変えていくような、大人の固定観念を打破するための働きかけが必要
- ・ 多様性を容認し、相手を思いやり、認め、理解し合う。また、違っていてもよいのであり、違いをもって相手を批判したり、排除したりしない。
- ・ ワンストップで相談できる場所がほしい。( 経済的支援や手続きなど )

## 8 子どもたちの遊び場や放課後の居場所について

### [ 現状・課題など ]

- ・ 子どもたちが自由で安全に遊べる場所が少ない。
- ・ スマホばかりで、身体を使って遊ぶことをしない。
- ・ 放課後児童クラブへの入級希望者が増えている一方で、支援員のなり手が不足している。
- ・ 支援員が足りておらず、子どもたちの行動を把握しきれていない。

[ 期待・希望など ]

- ・ 子どもたちの居場所となる新しいプラットフォームがあればいい。
- ・ 身体をいっぱい使える遊び場を開設してほしい。
- ・ 夏休みだけ子どもを見てくれる場所があればいい。
- ・ 子どもを持つ保護者の終業時刻を考えて、配慮してほしい。